

臨床研修の現場から

— 市立病院で育つ若い力 —

医師免許取得後、2年間義務づけられている臨床研修制度。市立病院は厚生労働省から臨床研修病院としての指定を受け、平成16年から研修医を受け入れています。今年度は全国から集まった11名の研修医が医療現場で研修を行っています。研修医は指導監督する上級医の指導のもと、複数の診療科で研修し、医師として必要な基本的な知識や技術、態度を身につけます。地域医療の現場で奮闘する2名の研修医取材しました。



— 麻酔科研修 —

愛着のある草加で研修を
高野恭平医師

術前に信頼関係を

草加市出身で今年医学部を卒業した高野恭平医師。愛着のある地元で研修を受けたいと市立病院を選びました。まず行っているのが麻酔科の研修。「安全な麻酔のためには手術前の回診から」と病棟に向き患者さんを診察。既往歴や使用できない薬がないかを確認するとともに、心臓や呼吸器機能などを調べ、手術に十分耐えられるかを確認します。「この回診が重要で、患者さんにとっての最適な麻酔法や注意すべき点を知ることができただけでなく、コミュニケーションをとることで信頼関係を築ける」と話します。



命の現場で

手術当日。患者さんに点滴をし、「これから眠くなりま



草加の医療に貢献したい

今後何らかのかたちで草加の医療に携わりたいと話す高野医師。「研修後はほかの病院や大学でも研鑽を積み、将来再び市立病院に戻り、地域医療に貢献したいです」と意欲を見せていました。



— 小児科研修 —

この科だから感じる喜び
里見瑠璃医師

現場で考えて

小児科で研修を受けている里見瑠璃医師。この日は朝8時半から上級医とともに小児科病棟で回診。まず、子どもの表情を見て元気があるかどうかを確認。ご飯を食べているかなど子どもの様子も一緒にいる親から聞き取ります。「このような基本的なことを自分



地域で医師を育てる時代に

市立病院
臨床研修プログラム責任者
診療部長 矢内 常人

新医師臨床研修制度が始まって今年で7年目を迎えました。初年度は4名でしたが、今年度は11名の研修医を受け入れることができました。近年は草加市や周辺の出身者が当院で研修を希望され病院を訪れるようになりました。

科と地域診療所実習が必須になりました。つまり大学病院や研修病院だけでなく、地域で医師を育てる時代が来たということです。



で見て、聞くことは非常に大事。大がかりな検査をしなくても症状を判断できるように」と副院長の土屋史郎医師は話します。



置が必要と判断すれば採血や点滴を実施。子どもの細い糸のような血管を指先のわずかな感覚でたぐり寄せ、針を入れていきます。「未来のある子どもを救うためと思えば大変さは吹き飛んでしまいます」と話します。

大きな喜びを実感

子どもを元気にするために苦勞を惜しまない里見医師。

午後一般外来が終了し、吐血やけいれんなど急病の患者さんが親に連れられ救急外来へ。恐怖感から暴れる子どもも多く、複数のスタッフで対応することもしばしば。処

子どもを救うために

「病院に来たときぐったりしていた子どもが元気になって退院する姿を見ると心からうれしい気持ちになりますね。子どもの病気を治すことができると、ほかの科では感じることができない大きな喜びになります」と笑顔で話していました。